

公益財団法人仏教伝道協会

平成 27 年度事業計画書

公益財団法人仏教伝道協会は、日本文化の基本でもある慈悲と共生の仏教精神と仏教文化とその学術振興を促進し、現代的理解を弘め、グローバルな啓蒙活動を通して豊かな人間性を育て、より良い社会形成を推進し、もって人類の幸福と世界平和の実現に貢献することを目的とし、その目的を達成するため、定款に定める事業に沿って「平成 27 年度事業計画」を立案する。 仏教伝道協会設立 50 周年を迎える平成 27 年度は、各種の 50 周年記念事業を実施するとともに、過去の活動を振り返りつつ、より公益性の高い財団として活動の域を広げていく。

1. 公益目的事業計画

1. 仏教典籍の現代語訳及び外国語訳による編集とその普及事業

(1) 「仏教聖典」各国語訳とその出版に関する事項

全世界に「仏教思想」を伝えるべく、「仏教聖典」の翻訳改訂を進めている。現在、翻訳言語数は 46 言語に及び、翻訳と共に既刊の「仏教聖典」をより現代に即した内容にするための改訂編纂に努めている。平成 27 年度はカンボジア語、チベット語、モンゴル語（キリル文字・モンゴル文字）、ポーランド語等の改訂を進める。また、今後予想される情報メディアの多様化に対応するために、「仏教聖典」のデータ化を進める。

(2) 「仏教聖典」の普及に関する事項

世界の主要ホテルの客室に「仏教聖典」を寄贈常備する活動を行っている。

平成 27 年度は国内外のホテルへ約 66,000 冊（国内 23,000 冊、海外 43,000 冊）の寄贈を予定している。また、病院、公共機関への寄贈活動も継続して行う。

仏教系学校および保育施設への聖典普及については、従来の子供用仏教聖典約 10,000 冊の頒布とあわせて、授業、公開講座等での活用を目的とした『普及版仏教聖典』の寄贈活動をさらに推進すると共に、社会福祉施設、行刑施設等への寄贈活動も活発化させる。寄贈数は 60,000 冊を予定している。

また「仏教聖典」が、現代の活字離れした読者にはややおぼろしいという声に応え、やさしい解説付き「仏教聖典」副読本（導入本）を製作し、読者の聖典理解の便宜を図る。

(3) 大蔵経の英訳・編集とその刊行に関する事項

欧米をはじめとする英語文化圏にも仏教の真髄を理解していただくため「集大成された仏典」である『大正新脩大蔵経』の英訳刊行事業を日本の仏教伝道協会と米国の仏教伝道協会の共同事業として進めている。日本の英訳大蔵経編集委員会と米国の英訳大蔵経出版委員会の協力のもと、第一期分として全体量の約 10 分の 1 に相当する 139 典籍の翻訳・刊行を進め、これまでに米国仏教伝道協会より、76 典籍 46 巻を刊行している。また、HP 上での既刊典籍の PDF データを公開し、英訳大蔵経の利便性・公共性を高めると共に、大正新脩大蔵経テキストデータベース研究会（通称：SAT）との協力により検索機能を充実させたデータを公開し、Web 上での電子大蔵経の構築を進める。なお、平成 27 年度は第 47 巻目となる『弘明集』等の出版、新刊毎に約 200 冊の国内頒布を予定している。

(4) その他仏教書籍の出版、頒布に関する事項

仏教の精神文化の裾野を広げるため全国の寺院、学校、保育施設等へカレンダー・仏教書籍を制作、頒布している。

「仏教聖典」や古今の名言から選んだ『一日一訓カレンダー』は、平成 27 年度は 151,000 部を印刷、その内 123,000 部を全国約 1,000 ヶ寺に頒布し、残りの 28,000 部を国内外のホテル、病院等に寄贈する。また、カレンダーに掲載する写真はこれまでプロが撮影したものを使用してきたが、平成 26 年度のフォトコンテストの一般公募で入選した写真を平成 27（2015）年用カレンダーに使用した。平成 27 年度も同様に平成 28（2016）年用カレンダーの写真をフォトコンテストで一般公募し、入選作品を採用する。なお、応募作品は寺院・ギャラリー等での一般公開を予定している。

平成 28 年用のカレンダーの解説書『みちしるべ ー正業』は、大谷大学名誉教授 小川一乗師に執筆を依頼し、約 90,000 部の頒布を予定している。さらに、設立 50 周年記念刊行物として、既刊みちしるべシリーズの中から 50 編を選び、『智慧』『慈悲』と題し各 25 編で刊行する“みちしるべ名講話選”は、平成 26 度刊行の『智慧』に続き平成 27 年度は『慈悲』を刊行予定。

また好評を博した、まんが「仏教のひみつ」を英語版に改訂した「The Wisdom of Buddhism in Japan」を今年日本で開催される世界スカウトジャンボリー等での配布を予定している。

次に、初心者向け図書として仏教の歴史や宗派、身近な仏教用語などを簡潔に解説した『とってもやさしい はじめての仏教』と題した冊子を作成、全国の観光寺院を中心に 30,000 冊の配布を予定。身近な仏教理解への一助とする。

2. 仏教精神と仏教文化とその学術振興の促進に対する助成と表彰事業

(1) 外国人留学生奨学金制度に関する事項

奨学生が自国に戻り日本で学んだ仏教精神とその文化を弘く伝えて戴きたいとの願いから、日本で仏教学研究を希望する外国の学者・研究者または学生に対して、外国人留学生奨学金交付制度を設けている。

平成 27 年度奨学生の募集は、平成 26 年 10 月 1 日から国内外の有名大学や研究機関へ留学生奨学金案内書と推薦書を約 150 通送付して依頼及びホームページで一般公募を行い、13 名の申請があった。

平成 27 年 2 月 5 日に外国人留学生奨学金審査委員会を開催し、平成 27 年度奨学生として、次の 2 名が選ばれた。この結果をもとに平成 27 年度外国人留学生奨学金の支給を実施する。

受給者① 氏名：Kevin Buckelew 国籍：アメリカ
日本での所属機関：京都大学 指導教授：船山 徹 先生
研究内容：唐・宋・元代中国の禅仏教における隠者

受給者② 氏名：Kyeongjin Choi 国籍：韓国
日本での所属機関：東京大学 指導教授：斎藤 明 先生
研究内容：ダルマキールティの刹那滅論証とチベット人による思想的発展

また設立 50 周年および「外国人留学生奨学金制度」創設 25 周年記念刊行物として、現在、当協会で行っている「外国人留学生奨学金制度」「日本人留学生奨学金制度」ならびに海外協力機関であるヨーロッパ仏教伝道協会で行われている「ドイツ大谷奨学金」「ドイツ恵光研究奨学金」、同じくカナダ仏教伝道協会において運営されている「BDK Canada Graduate Scholarship」計 5 つの奨学金を過去に受給された方がたの現在に至るまでの研究成果、活躍の状況、奨学金受給の意義等を記す『受給者名鑑』の刊行を予定している。同冊子は平成 27 年 6 月上旬頃発刊、約 700 部を国内外の奨学生受け入れ研究機関および指導教授、関係各位へ送付予定である。

(2) 日本人留学生奨学金制度に関する事項

平成 25 年度から新たな奨学金事業として日本人の学者や研究者が海外の大学や研究機関にて仏教精神とその文化を学び、将来世界のこの分野で大きく貢献してくれることを期待して日本人留学生奨学金制度を設立した。

平成 27 年度奨学生の募集は、平成 26 年 7 月 1 日から国内外の有名大学や研究機関へ留学生奨学金案内書と推薦書を約 150 通送付して依頼及びホームページで一般公募を行い、4 名の申請があった。平成 27 年 2 月 5 日に日本人留学生奨学金審査委員会を開催し、平成 27 年度奨学生として次の 2 名が選ばれた。この結果

をもとに平成 27 年度日本人留学生奨学金の支給を実施する。

受給者①氏名：一色 大悟

海外での所属機関：ブリストル大学宗教神学科（イギリス）

指導教授：Rupert Gethin 先生

研究内容：説一切有部と南伝上座部における存在論の比較研究—涅槃の実在性を中心として

受給者②氏名：石村 克

海外での所属機関：ニューメキシコ大学哲学科（アメリカ）

指導教授：John Taber 教授 先生

研究内容：真理論をめぐる仏教学派とバラモン教学派の相克

（３）仏教伝道文化賞の贈呈に関する事項

仏教伝道文化賞は、国内外を問わず、仏教精神、仏教文化、仏教学術及び布教伝道など仏教に関わる幅広い分野で貢献された方がたの功績を讃え、また今後のさらなる活躍を願い表彰する賞として昭和 42（1967）年に創設された。

長年に亘って仏教伝道文化に貢献のあった方または団体に「仏教伝道文化賞」を、また今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が、大いに期待できる方または団体に「仏教伝道文化賞 沼田奨励賞」を授与する。

平成 27 年度は 10 月に贈呈式の挙行を予定し、4 月初旬ごろより国内外の仏教各宗派、大学等の教育機関、研究機関、仏教団体、報道機関、政府機関及び専門家等に推薦依頼状を発送して、仏教伝道文化賞及び沼田奨励賞の推薦を受け、7 月頃に仏教伝道文化賞選定委員会を開催し、平成 27 年度の受賞者を決定する。

（４）その他の助成に関する事項

①他団体等への助成

当財団の事業目的と同じ目的を持ちその活動を積極的に展開している個人及び団体を選定し、当財団の目的とする事業実現のため国内外で助成支援を行う。助成にあたっては、外部有識者や専門家からなる助成金審査委員会のもと、公正な審査を経て選定、助成する。

平成 27 年度助成対象（平成 26 年度後期募集分、交付時期平成 27 年 5 月頃）を審査するため、平成 27 年 2 月 16 日に助成金審査委員会が開催され、審議の結果、下記の団体にそれぞれ助成金を交付することが決定した。助成金審査委員会の決議を踏まえ、平成 27 年度は国内総額で 7,900,000 円、海外は US\$252,100、CD\$56,000、£30,000、€130,400 の助成を実施する。

国内（平成26年度第2回助成金審査委員会決議分）

団体名	申請事業名称
(公財) 全国教誨師連盟	教誨師の研修事業
東京親鸞会	東京親鸞会活動助成
日本印度学仏教学会	学会の情報化対応を通じた国際的学术交流及び文化貢献の促進事業
南無の会	南無の会活動助成
(公財) 中村元東方研究所	中村元東方研究所 研究助成事業
(一社)お寺の未来	お寺おやつクラブ活動助成
(株) 劇団前進座	九條武子夫人90回忌お待ち受け企画 前進座『如月の華』東日本大震災復興・仙台チャリティ公演
特別展「聖護院の名宝～修験道と華麗なる障壁画～」実行委員会	特別展 増誉大僧正900年遠忌記念「聖護院の名宝～修験道と華麗なる障壁画～」
龍谷大学 龍谷ミュージアム	企画展「玄奘三蔵と薬師寺」

海外（平成26年度第2回助成金審査委員会決議分）

団体名	申請事業名称
Institute of Buddhist Studies (米国仏教大学院)	『パンフィックワールド』出版事業
UC Berkeley Center for Buddhist Studies (UCバークレー仏教学センター)	沼田智秀仏教書籍優秀賞
The University of Chicago Divinity School (シカゴ大学神学部)	沼田仏教講座活動助成
McGill University (マギル大学)	沼田仏教講座基金

助成金分割交付分

団体名	申請事業名称
東洋大学仏教会	東洋大学仏教会プロジェクト 単語検索ツール「イェシェキメロン」開発及びデータベース構築事業
Institute of Buddhist Studies (米国仏教大学院)	沼田恵範教授基金
UCLA Center for Buddhist Studies (UCLA 仏教学センター)	沼田恵範仏教講座基金
SOAS, University of London (ロンドン大学東洋アフリカ研究学院)	沼田仏教学教授ポスト設立事業
University of Vienna (ウィーン大学 南アジア・チベット・仏教学部)	沼田仏教講座基金
University of Vienna (ウィーン大学 南アジア・チベット・仏教学部)	沼田仏教講座活動助成
Universität Hamburg (ハンブルク大学)	沼田仏教学教授ポスト設立事業

なお平成 27 年度 11 月頃助成審査対象分（平成 27 年度前期募集分：申請時期平成 27 年 6 月 1 日から 9 月 30 日）として 600 万円の予算を別途設ける。

3. 仏教精神とその文化興隆にかかわる啓蒙活動と支援事業

(1) 啓蒙活動としての仏教関連講座、セミナー、研究会等の運営に関する事項

① 仏教聖典を初歩英語で学ぶ会

英語を通して仏教精神を学ぶことを目的とし、ホームページ、業界新聞、行事チラシなどで案内し、平成 23 年 9 月より月 1 回（8 月を除く毎月第 4 木曜日、午後 6 時 30 分から午後 8 時まで）「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」を開催している。毎回約 30 人（参加費 500 円）が毎月参加している。

平成 27 年度は、前期と後期で講師は変更し、前期はステファン・グレイス氏（親鸞仏教センター嘱託研究員）を講師に禅を中心に学ぶカリキュラムを実施し、後期はケネス・田中氏（武蔵野大学教授）を講師に当協会が過去にアメリカでの放映を目的として作成した TV 説法「Mutually Sustaining Life ～A Buddhist

Call to a Troubled World～」をテキストとして、映像とリスニングに重点を置き、講座を進めていく。

② 仏教聖典を生活に活かす会

仏教精神を日常生活に活かすことを目的としてホームページ、業界新聞、行事チラシなどで案内し、仏教聖典を基本教材に、毎月1回（第4木曜日、午後1時30分から午後4時まで、講話・質疑応答・座談会含む）専門家の講師を招き、「仏教聖典を生活に活かす会」を主催運営する。

③ 仏教聖典を経営に活かす会

仏教精神を学び事業経営に活かし、また人生の道標の一助とすることを目的とし、おもに事業経営者や一般の社会人を対象にホームページ、業界新聞、行事チラシなどで案内し、仏教聖典を基本教材に、毎月1回（第3水曜日、午後6時から午後8時まで、講話・懇談会含む）専門家の講師を招き、「仏教聖典を経営に活かす会」を主催運営する。なお、8月には、日本仏教への理解を深めると同時に参加者同士の交流をはかることを目的に、「仏教聖典を生活に活かす会」の参加者と合同で、寺院等を訪問し、研鑽する「夏季研修会」を開催する。

④ 三田落語会

仏教説話や寺社を舞台とする古典落語を交えて、近隣はじめ一般の方々に楽しんでいただくと同時に仏教精神の涵養と仏教文化継承を目的とし、ホームページ、チラシなどで案内し、平成24年4月から当財団の主催として「三田落語会」を開催運営している。

平成27年度もこの落語会を継続し、年6回（昼・夜2部構成）の公演を企画、運営する。平成27年度の開催予定日は次の通り。

平成27年4月25日（土）、6月27日（土）、8月29日（土）、10月24日（土）
12月19日（土）、平成28年2月下旬（土）。

また平成27年度は設立50周年記念企画として、日頃のたくさんの方がたのご来場に感謝し、浜離宮朝日ホールを会場に「三田落語会 大感謝祭(仮)」を平成28年1月30日（土）に開催をする。

⑤ 特別仏教講座「落語の原点 節談を聞く」

仏教伝道協会設立50周年を記念して、落語の原点といわれる節談説教を多くの方々に伝え、落語を縁として仏教の魅力を知っていただくために、特別仏教講座「落語の原点 節談を聞く」をホームページ、業界新聞、行事チラシなどで案内し、当仏教伝道センタービル8階「和」の間にて、平成27年4月2日（木）に開催する。

同講座では、節談説教研究会事務局長 府越義博師による「節談説教について」の講演、浄土真宗本願寺派布教使 桜庭尚吾師による「落語と節談」の実演、真

宗大谷派布教使 廣陵兼純師による節談説教を予定している。

⑥実践布教研究会

日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶たちが自ら体験することによって、聞・思・修一体となった仏道を体験していただき、仏教の現代的理解の促進、ならびに各宗派の僧侶間の交流を推進すべく、各宗派の本山を会場に毎年1回2泊3日にて実践布教研究会を開催しており、現在までにその開催実績は44回を数える。

平成27年度は6月10日から6月12日まで、第45回実践布教研究会として曹洞宗大本山永平寺を会場に「布教伝道～曹洞禅に学ぶ～」をテーマに開催する。今回の分科会では、「現代人にこたえる仏教～私の視点～」をテーマに掲げ、討議する。

⑦働くひとのための坐禅会

平成25年度より新たな企画として、現代社会において日々忙しく働く女性の疲れた頭やこころを、坐禅を通じて整理していただき、また仏教に親しみをもってもらうことを目的にホームページ、業界新聞、行事チラシなどで案内し、専門家の講師を招き、仏教聖典を使用した法話20分、坐禅40分、茶話会30分の構成で「忙しい女性のための坐禅会」を企画実施してきた。

平成26年度より、参加者の枠を広げ、男女混合の「働くひとのための坐禅会」を実施し、毎回約15人（参加費500円）が毎月参加している。

平成27年度も同坐禅会を継続するとともに、より効果的な宣伝を行い、参加者増に努める。

⑧仏教関連講演会、シンポジウム等の開催

平成25年4月からの一般の方がたにより仏教文化、仏教精神の素晴らしさを広く知って頂く機会を提供すると同時に、日本仏教各宗派の仏教伝道の一助となるようなシンポジウムを企画、ホームページ、新聞、行事チラシなどで案内し実施している。

平成27年度はテーマを「仏教における科学と信仰」とし、仏教研究者として第一線で活躍される佐々木閑教授（花園大学）とカール・ベッカー教授（京都大学）に講演していただき、その関係性を来場者と一緒に考える機会作りをする。

1) 平成27年7月

講演者：佐々木 閑 氏（花園大学）

2) 平成28年3月

講演者：カール・ベッカー 氏（京都大学）

⑨ 「ブッダのことば」写真展の開催

東日本大震災から4年が経過したが、いまだ多くの方々が仮設住宅での不便な生活を強いられており、また肉親や友人をなくされた多くの方々はいまだに大きな心の傷を抱えている。物理的な復興は進んできたが、今被災地では精神的な支えが求められている。これらの被災地の方々に少しでも、心の安らぎが得られるようブッダの言葉とそれに合わせた写真の展示会「写真展 ブッダのことばとインドの風景」を平成26年度に岩手県と東京にて開催した。平成27年度は、特に復興が遅れている福島県にて同写真展を開催し、被災者の方がたを精神面で支援していきたい。

⑩ BDK 仏教ヨガ

今日、ヨガは健康や美容という視点から大きな流行にあるが、これは釈尊が実践していた修行体系（呼吸法）の一つであり、仏教と深い関わりを持っている。しかし、今日この仏教という大事な視点が忘れられているように見えるため、当協会独自のヨガとして、仏教に焦点を当てた仏教ヨガ講座を開催し、さまざまな環境下でストレスを溜め込んでしまっている方々に、身体と心の健康を養い、心や頭の整理をする場を持っていただく。ホームページ、新聞、行事チラシなどで案内し、平成27年4月より月1回（8月を除く毎月第1水曜日、午後7時00分から午後8時30分まで）開催する。

⑪ 沼田智秀仏教書籍優秀賞受賞者講演会

西洋における仏教学研究のさらなる発展を目的とし、仏教伝道協会の助成と支援のもとに、平成21（2009）年カリフォルニア大学バークレー校（以下UCバークレー）の仏教学センターに「沼田智秀仏教書籍優秀賞（Toshihide Numata Book Prize in Buddhism：通称Toshi Prize）」が設立された。国内での「沼田智秀仏教書籍優秀賞」の普及の為、2014年度 沼田智秀仏教書籍優秀賞者の一人であるエリック・ブラウン博士（オクラホマ大学）の来日講演を6月に東京大学と龍谷大学で開催する。

⑫ 公益財団法人 仏教伝道協会 設立50周年記念講演会

当協会は本年設立50周年の節目を迎え、これまでの活動を振り返ると同時に、次の100年に向けた弾みとすべく、池上彰氏（ジャーナリスト・東京工業大学教授）を講師として迎え、「世界から見た日本仏教」（仮）をテーマとして、ホームページ、新聞、行事チラシなどで案内し、約1000人の来場者を集め、設立50周年記念講演会を開催する。葬式仏教と非難され日本仏教界の危機が問われる今日、仏教の本来の姿というものを振りかえることで、多くの方に再度日本仏教の役割を認識し、新たな発見と創造性を得ていただける機会作りに貢献する。

⑬ 書道と禅のワークショップ

平成 27 年度の新企画として、人気の高い書家による書道教室と、僧侶にその文字について解説や説教をしていただくワークショップを実施し、仏教文化に触れていただく機会を一般の方に提供する。ホームページ、業界新聞、行事チラシなどで案内し、実施する。書家の候補としては、武田双雲氏や鈴木猛利氏を検討。平成 27 年 9 月に第 1 回目を開催、平成 28 年 3 月に第 2 回目の開催を予定している。

(2) 仏教音楽の現代化とその普及に関する事項

伝統的宗教音楽を継承すると同時に、仏教音楽の現代化を進め、広く仏教精神とその文化に親しんでいただくことによって、仏教的基盤の確立を目指し、仏教音楽にちなんだコンサートや、新しい仏教音楽の作品募集などを行っている。

平成 27 年度は設立 50 周年を記念して、伝統的宗教音楽である、声明を中心に Buddhaspel(ブダスペル)仏教音楽祭を企画し、ホームページ、新聞、行事チラシなどで案内し、平成 27 年 9 月 11 日(金)、恵比寿ガーデンホールにて開催する。

(3) 機関誌の発刊、ホームページでの広報等に関する事項

仏教伝道協会の事業を広く知っていただくために必要なツールとして、協会の近況を報告する「心のかげはしカード」や近年の活動をまとめた冊子「ニュースレター 道」の刊行を行う。また、ホームページの充実ならびに随時内容の更新、情報公開を行うとともに、公式 Facebook を活用した最新情報の提供、およびイベント情報などの広報を行う。

4. 施設の貸与事業

公益目的事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設を有効活用し、公益目的事業として施設の貸与事業を行う。当財団が公益財団移行後に公益目的として掲げる“豊かな人間性を育て、より良い社会の形成を促進しもって人類の幸福と世界平和の実現”に貢献する事を目的とした会議等を開催する公益法人、社会福祉団体、NPO法人、市民団体等を優先し、通常(一般)は3ヶ月前からの予約受付に対し、6ヶ月前から予約を受け付け、通常(一般)価格の半額で貸出し、多くの公益目的事業を側面から支援することによって、社会貢献する。

II. 収益事業計画

収益事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設における公益事業目的で当面使用予定のない空きスペースならびに空き時間を一般に向けて貸与する事業を平成 27 年度も継続して行い、利益のうち 50%を公益目的事業に寄付する予定である。

Ⅲ．その他

①設立 50 周年に関連する事項

昭和 40 年の財団設立より平成 27 年で 50 周年を迎え、この機縁に、50 年史、仏教伝道協会の事業紹介映像 DVD を制作する。また、平成 27 年 11 月 27 日には、これまでの活動を支えてくださった各位に謝意を表するとともに、今後のさらなる発展を誓う場とすべく、千代田区・ホテルニューオータニ東京にて、設立 50 周年記念式典を開催する。

②本事業計画に掲げるもののほか、この法人の目的達成のため、必要と認める事業を行う。

以 上